



地域ごとに、主体的に取り組む地域団体に対しては、支援を始める予定であり、①公共交通の必要性を理解して積極的に利用すること、②くらしに必要な地域での移動手段の確保にむけて主体的に取り組んでほしい、とまとめられました。

免許証返納後に不安

お話の後、参加者から発言が続きました。

「運転免許証を返納した後がとても不安。坂道がある」「81歳でまだ運転せざるをえない。こどもからは返納せよと言われているが」「今は運転しているが返納後は不安。猪名川や宝塚、各自治体が交通支援や補助をしているので、川西でもやってほしい」

病院遠くなり移動大変

「毎週病院へタクシーを利用、ワンメーターだと運転手さんに嫌な顔をされる」「疾患があるので、坂道が大変で遠くに行けない。タクシーがつか

まらない。バスや電車を利用しやすいように支援してほしい」

「家族が入院中。運賃が高くて見舞いに行けない。病院がなくなって大変。医療の確保、交通費支援などいろいろな方面で改善してほしい」「持病があってバスや電車に乗れない。病院への通院はタクシー、総合医療センターまで 7000円から8000円。ものすごく負担」

近隣のように交通支援を

「坂道が大変。通院が大変。優しいまちづくり、住み続けることができるようにしていきたい。近隣市町のような支援がほしい」「健康でいたい、フレイル体操に行きたい、でも移動が大変。6000円の交通費補助を復活してほしい」

「坂道で駅やバス停まで行くのが大変。タクシーの初乗り支援とかやってほしい」「兵庫県の中で、高齢者への交通費支援が、ほぼ最下位」「運賃が高い。大阪市営地下鉄では補助がある」「高くて、タクシーばかり乗れない。自己負担を減

らしてほしい」「猪名川のように家の前まで来てくれたら良い」「住んでいる場所で要望が違うが生活基盤として移動の確保は必要。道路の整備も行うべき(狭い道路対策)」など、他地域でもたくさん聴こえてくる日常生活の中での移動の困難や不安が語られました。

必要な医療も奪いかねない

お話をお聴きして、川西病院の移転や地域開業医さんの閉院で、病院までの時間的・経済的負担が大きくなり、必要な医療をも奪うことになりかねない、との危機感を持ちました。

日常の買い物でも同様、今はまだ、お隣・ご近所で助け合いながら踏ん張っておられますが、「免許を返納したら」、たちまち買い物に困ることになります。

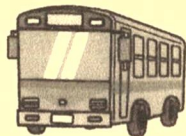
近隣市町で、様々な交通手段(乗合タクシーや地域バスなど)や経済的支援(交通費補助、利用券や割引など)があるのに、川西市は何もないことも訴えられました。

知恵と工夫も出し合い

今、必要なのは、住民の実態をしっかりと把握し、買い物や通院などの日常生活を保障する移動手段(地域公共交通、交通費支援・補助制度)の確保です。近隣市町の取り組みを市民に知らせ、自分たちの地域に見合った移動手段を早急に確保できるように取り組んでいきましょう。

民間交通事業者も様々な工夫をされています。市役所が本当の市民の役に立つ所となるよう、市が本気の「持続可能なまちづくり」を前へ進めるか否かにかかっています。みんなで知恵・工夫、力を発揮しましょう。

(表2) 高齢者社会参加と交通権確保について (兵庫県高齢者保健福祉関係資料 令和5年2月1日現在 全日本年金者組合兵庫県本部社会保障部資料)

2023度(8月)	コミュニティバス予算	公共交通機関運行助成予算	交通券等助成予算	高齢者一人当たり予算	交通権対策 (有 無)			
					コミュニティバス	デマンド交通	敬老タクシー	その他
川西市	0	2120万4千円	0	435円				
伊丹市	0	0	5億3千万円	10231円				市バス乗車証
宝塚市	0	6580万3千円	1億558万8千円	2608円				
三田市	396万6千円	9305万8千円	7337万4千円	5629円		あり		敬老乗車証
尼崎市	0	1億9977万2千円	2億9422万3千円	3920円				
西宮市	2704万円	1億6820万円	1億3440万円	2790円	あり			
芦屋市	0	9504万円	0	3355円				路線バス補助
神戸市	1億3598万4千円	8540万7千円	46億3182万1千円	11191円	あり	あり	あり	
猪名川町	2627万6千円	3905万5千円	1000万円	7876円	あり	あり		

議員団訪問中

…ありがとうございました…



小・中学校ではじまったフリースクール

今年度から全ての小・中学校ではじまったフリースクール。議員団で3つの学校に訪問、懇談、見学させて頂きました。「学校にこどもを合わせるのではなく、こどもに学校を合わせる」「多様な学びの場の必要性」。支援員の配置や予算設置など課題はありますが、将来を見通した教育現場に期待、支援していきたいです。

中学校給食センター

中学校給食がはじめて1年。現場で奮闘頂いている栄養教諭など専門家の皆さんと懇談。小学校の自校調理給食と中学校のセンター給食は全く別物であること。28品目のアレルギー除去食は注目されていること。こども達の成長発達を促し、食の主人公になるよう国が給食の重点にしている「食育」「健康増進」について、教育委員会・学校現場と協力していきたい～と熱いメッセージを聴かせていただきました。

コロナ禍がおちついた総合医療センター

コロナ禍は落ち着いてきたものの、インフルエンザが流行ってきている中、能勢口から病院行きバスに乗って見学。開院から1年、スタッフが動きやすいよう、患者さんや家族の方のための工夫や改革が行われているお話をそれぞれの職員さんからお聴きました。これからも、公立病院としての役割・責務を果たしてもらえよう、市と連携して「命の砦」を堅持してほしいです。